

研究発表会のご案内



<令和7年度第78期生研究発表会 上伊那教育会館 第1分科会協議の様子>

会場参加型

◆6月13日(土) 飯田市立座光寺小学校 発表・協議 (第1～3分科会)

◆7月11日(土) 信濃教育会館 発表・協議 (第1～3分科会)

分科会発表者は次ページをご覧ください。分科会は、1人発表(20分)協議(40分)を2回行います。

《日程》 対面 <6/13 座光寺小学校、7/11 信濃教育会館、9:15～12:00>

8:50～9:10	9:15	9:30	12:00
受付	全体会(岩川所長挨拶)	分科会(第1分科会～第3分科会より選択)	

オンライン参加型

◆6月18日(木) 16:00～17:00 オンライン① (発表予定者: 田牧・小林)

◆6月25日(木) 16:00～17:00 オンライン② (発表予定者: 増田・佐藤)

◆6月30日(火) 16:00～17:00 オンライン③ (発表予定者: 中澤・土屋)

16:00～17:00の1時間で、2事例の発表(各15分)と協議をZOOMにて行います。

※ オンライン①～③の発表者は、入れ替えになる場合があります。申し込み時にHP研究発表会詳細を再度ご確認ください。

学び合おう 子どもの目線から

この発表会は、研究所で学んだ第79期研究員が研究成果を報告し、報告をきっかけとして、参会の先生方と共に互いの実践を交流し合い、子どもの目線から授業づくりのあり方を求める会でもあります。

改めて教師のあり様が問われている『今』、学校での実践にゆらぎが懸念される『今』、私たちは何を見据えて実践に取り組んでいったらよいでしょうか。皆さんと大いに語り合えたらと願っております。

開催期日・会場・申し込みフォーム

参加希望の方は、下記の【二次元コード(Google フォーム)】よりお申し込みください。(受付 4/2 より)

※尚、開催期日ごとに申し込みの二次元コードが異なりますのでご注意願います。

▼ 申込みはこちらからどうぞ！皆さまの参加をお待ちしております ▼



← ◆ 6月13日(土)

飯田市立座光寺小学校 対面

申込み〆切日
6月11日(木)

◆ 6月18日(木) →

オンライン開催①(Zoom)



申込み〆切日
6月17日(水)



← ◆ 6月25日(木)

オンライン開催②(Zoom)

申込み〆切日
6月24日(水)

◆ 6月30日(火) →

オンライン開催③(Zoom)



申込み〆切日
6月29日(月)



← ◆ 7月11日(土)

信濃教育会館 対面

申込み〆切日
7月9日(木)

※ オンライン①②③の発表のみ、実施後に信教 HP「会員のページ」に掲載する予定です。

研究発表会の詳細については、右の二次元コードよりアクセスしてご覧ください。

お問い合わせは、【信濃教育会 教育研究所 [TEL:026-232-7169](tel:026-232-7169)】まで



【研究発表会詳細】

第1分科会

自分らしさが発揮できる場がひらかれたとき

～「苦手そう」という見方を問い直して～

研究員 田牧 諒（小学校教諭）

キーワード：自分らしさ 苦手意識 国語



私は、「苦手そう」に見える子どもに寄り添ってきたつもりでいながら、その原因はどこか子ども自身の内面に起因するものと考えていました。体育が「苦手そう」に見えたA児とのかかわりを振り返り、子どもが感じる苦手さを、共に突破できる教師でありたいと考えるようになりました。しかし、実習先の小学校で出会ったB児・C児とのかかわりを通して、「苦手そう」という見方は、決して子ども自身の問題ではなく、自分らしさを発揮できない、狭い学びの空間の中で生み出されたものであったと気付かされました。

子どもも教師も自分らしさを発揮しながら、共に考え、迷い、喜び合う場に、「苦手そう」と見る私も、「苦手そう」にしている子どももいませんでした。目の前の子どもたちが、自分らしく学べる場はどうあるべきか、皆さんと一緒に考えられたらと思います。

「探究的な学び」を問い直す ～そこで起きていることの意味を探る～

研究員 増田 啓佑（小学校教諭）

キーワード：探究的な学び 協働 総合的な学習の時間・社会



かつて「探究的な学び」を目指し取り組んだ授業が、追究方法を子どもに委ねていただけの、解を持った教師が課題に向かわせる授業だったことに気付きました。これまでの私の授業と何も変わっていなかったことがわかった私は、「探究的な学び」を根本から問い直したくなりました。

石碑の調査活動や社会科の工業の実践を振り返る中で見えてきた、「問いが生まれたその子のいきさつ」「追究対象が特別なものになっていくこと」「協働で生まれる学びの豊かさ」について、深く考えることになりました。そして、この1年の研究を通して一番の気づきだったのが、子どもの「気が付いたら探究していた」という姿です。この姿が、「探究的な学び」のあり方を示しているのではないかと感じました。

研究発表会では、「探究的な学び」について皆さんと共に語りあえたら幸いです。

第2分科会

かかわりが繋がり合うこと

研究員 小林 愛奈（小学校教諭）

キーワード：かかわりの変化 「当たり前」の問い直し



これまで私は、「みんなが気持ちよく過ごせる教室」をキーワードに学級づくりを行ってきました。教師が子どもとどのように関係をつくるかが重要だと考え、学校や学級のルールを丁寧に確認したり、決まりの中で子どもが自由にできるよう考えたりすることを大切にしていました。しかし、イチカやシホ、ユズハの不安や抵抗から、これまでの私自身の姿を見つめ直し、子どもとどのように過ごしたいのかを改めて考えました。ゆっくりとかかわりが繋がり合っていくことで表情や言葉、声色が変化し、子どもも私もそれぞれの歩みの中で、相手に向けるまなざしに変容していました。そのまなざしが変わっていく過程にこそ、温かくて、柔らかな関係を築く礎があったのだと感じています。

これからも日々悩みながら、でも、真っすぐに子どもたちとかかわるため、先生方とかかわりが繋がっていくことの意味を考え合えたらと思います。

「わかる」「できる」を超えて、その子を「知りたい」「感じたい」がひらく

研究員 佐藤 健二（中学校教諭）



キーワード：不登校 生徒理解 技術科

夏休み明けから学校を欠席するようになったA生。関係を再構築する中で「学校生活で不安に感じていることはないか」などを尋ねるが、本人から明確な回答はなく、担任である私は、A生の不安を取り除くような支援ができず、もどかしさを感じていました。徐々に不安や不満を話すようになったA生に対して私は、不安一つ一つに対して対応を考え提案をします。「明日は学校に行く」と言ったA生は、次の日になると登校を渋り、不登校の解決には至りませんでした。

私が授業で生徒に向けてきたまなざしは「わかっているか」「できているか」が中心であり、そのまなざしが教室の「居づらさ」や「息苦しさ」を生み出していたのではないだろうかと考えるようになりました。同調圧力や序列が生まれる閉塞的な状況が、学校や集団の怖さにもなっているのではないのでしょうか。そこで、生徒のことを「知りたい」「感じたい」という思いで実習に臨みました。生徒に関心を寄せることで見えてきた、その子の気持ちに私は応えたくなくなっていました。

第3分科会

子どもの想いに向き合い、応える道徳

研究員 中澤 智徳（小学校教諭）

キーワード：遊びと道徳の授業 共に考える



「子どものために」と思って小学校で教師生活を送っていた私は、思うように進まない学級経営やトラブルの指導を繰り返すうちに、そのような思いが揺らいでいました。そんな中、実践を省察することで、私の子どもとのかかわりや道徳の授業は、子どもにとってどうだったのか、想いに応えていたのか、と考えるようになりました。

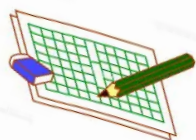
実習でかかわった小学校3年生のケンはずき時間の遊びで「主張を通したい」という強い気持ちがありました。その遊びを題材にした道徳の授業で、ケンは友だちの発言をきっかけに、みんなで遊ぶことを思い直しているようでした。

子どもの想いに向き合うとは？応えるとは？皆さんと一緒に考えることができました。

関心を向け、問い直すことから始まる授業づくり

研究員 土屋 大輔（中学校教諭）

キーワード：関心の向け方 国語の授業づくり



私の授業づくりは、指導事項に即して私自身が設定したねらいを、いかに達成するかということを優先的に考えて行ってきました。さらに、わかりやすく教えるために、国語の専門的な指導技術を勉強し、実際に取り入れながら実践を重ねてきました。実践を振り返ると、生徒の具体的な学びの姿を語れない授業がほとんどで、目の前の生徒たちに関心を向けていない私がいたことに気付きました。

実習中、B生に関心を向け続けることで、B生への捉えが深まっていくのを実感しました。同時に、授業で生徒たちに向ける目が変わっている自分がいることに気付きました。このことは、私自身の授業づくりを問い直すことにもつながっていくことがわかりました。

授業づくりで大切にすべきことは何か、問い続けています。